

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学研究科 表現文化専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

表現文化専攻の理念・目的は、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明文化されている。本専攻は言語、音楽、造形、運動・舞踊という4つの表現領域について高度な専門的知識や実技能力を身につけるとともに、人間の表現行為に通底する諸問題を見据えながら各自の専門領域を深化させることにより、新たな領域横断的な表現の可能性を探求していくことを理念・目的としている。現在求められているアクティブラーニングスキルにも対応した、実技によるパフォーマンス評価も重視し、社会状況にも適応した表現力の育成を基盤としていることから、本専攻の理念・目的は適切に設定されていると考えられる。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「人材養成に関する目的」は、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の「教育目標」として定めており、「教育研究上の目的」は、同規程の「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」として定めている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

表現文化専攻の理念・目的については、大学ウェブサイトや入試・広報の印刷物などに「規則」に基づいて統一的に掲載し、一般に公表している。また1回生、2回生ともに年に2回の中間発表会を開催、2回生は修了発表会等を公開し、その他学生並びに教員が企画する公演、制作展などを通して広く内外にその具体的な成果を発信している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 大学の理念・目的をふまえ、表現文化専攻としての理念・目的が適切に設定され、周知されている。とりわけ、学生並びに教員が企画する公演、制作展などを通して広く内外にその具体的な成果を発信していることは特筆に値する。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学研究科 表現文化専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

学位授与の方針は大学院要覧に包括的に示され、発達教育学研究科としての学位論文審査基準も示されている。また平成25(2013)年に制定された「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」において大学院学則12条の2の要件を満たし、あわせて学位論文基準を満たした者に対して、修士(表現文化)の学位を授与することが明示され、教育目標に基づき習得すべき学修成果も明記されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

表現文化専攻修士課程の学位授与の方針は「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の別表2「学位授与の方針[平成25(2013)年]」において、教育目標に基づき具体的に①[知識・理解]、②[技能・表現]、③[態度・志向性]、④[統合的能力]の4項目に亘って示され、グローバルなコミュニケーション能力および専門的能力を身につけていることが明示されている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3「教育課程編成・実施の方針」を定めている。「教育課程編成・実施の方針」では「学位授与の方針」との関連性を踏まえ、回生ごとの教育課程の編成内容を示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

言語、音楽、造形、運動・舞踊の4領域から成る表現文化専攻の教育課程においては、すべての科目を「固有領域の深化を図る科目群」と「統合を図る科目群」に区分して、各々の科目の位置づけや目的を明確にしている。このうち「固有領域の深化を図る科目群」については各領域について特論と演習を設け、最終的に「表現文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」で専門領域の修士研究の指導にあたる。一方「統合を図る科目群」については4領域の教員4名が交代で担当する「表現文化基礎論」と「表現文化演習」を核となる必修科目として開設している。以上のことから、本専攻の教育課程は体系的に編成されていると考えられる。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

4領域から成る本専攻の教育課程においては、各科目の目的と内容が明確に位置づけられており、体系的な編成がなされていると考える。

<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 言語、音楽、造形、舞踊の表現に関し、講義形式による知識の教授だけでなく、どの授業も基本的にアクティブラーニングを取り入れている(シラバス参照)。例えば、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートをはじめ、問題解決学習、体験学習等が行われている。表現技能に関わる個別の実技指導においてもその共有が図られている。 また、学位論文指導に関しては、1回生時より指導教員が指導するとともに、各年毎2度、表現文化専攻構成員全員の前で発表させ、多くの先生方や同回生や上回生が質問、アドバイスするなど計画的に指導している。</p>
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 専攻内FD活動の一環としてシラバスの記載内容の点検を必ず実施し、シラバスの「授業計画」欄をはじめ各欄に必要な情報が精粗なく記述されているか、確認を行なっている。 また、大学院アンケートを実施し、院生の講義に対する評価を参考に講義内容を精査し検討している。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて、評価基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。提出された学生の成績は、教務課・教務委員会によって、確認・点検され、適切な単位認定が行われている。 修士の学位授与については、その要件や申請、審査、試験、学力の確認、論文要旨の公表等について学位規定に明記されている。また、学位論文提出にかかわる手続き及び審査(基準)については、学位論文の取扱いに関する内規のとおりに行われている。</p>
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 表現文化専攻は言語、音楽、造形、運動・舞踊という4つの表現領域について専門的な知識や実技能力を身につけるとともに、人間の総合的な表現行為の根源に立ち返って各自の専門領域を深化させることにより、新たな領域横断的な表現の可能性を探求していくことを理念・目的としている。こうした専攻の特性に応じた学習成果を測定するための指標については、本専攻のすべての授業における「シラバス」に明記されているところである。また「シラバス」に示す指標に基づいた学習成果を把握・評価する際は、いわゆるアクティブラーニングにも対応した、実技によるパフォーマンス評価も重視することとなる。身体的な表現など、各領域の特質を踏まえた表現を通してより深い理解に至ることを重視した学習成果把握が重視されることとなるわけであるが、この点についても、「シラバス」に明記の通り、いずれの授業科目においても、学生が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、実技的な内容とそれらを体系的に学ぶ内容とがバランスよく配列されている。また、授業中における学生の主体的な意思を重視した授業構成を工夫する授業が非常に多くなっているもの本専攻の授業の特徴である。少人数授業を通したきめ細かい指導と評価を実現することができている状況である。一人一人の学生の学習成果については、年2回の中間発表会と最終的な研究発表会等により、各教員が学習成果の確認の場として活用している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・「シラバス」については、細かな点検と評価の結果、各分野の特性を生かした学習成果を適切に把握できるよう、学生にも分かりやすいきめ細かな成果指標が示されるようになってきている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の教育目標は、表現や文化についての総合的知見を有する教師や、表現文化の実践的な担い手を育成することである。この目標のもとに、各授業の目標や内容がシラバスにきめ細かく記載されている。シラバスの内容については、専攻内の教員が相互に同一の観点及び基準に基づき、相互点検を行っている。点検の結果修正が必要な場合は、当該授業担当者がシラバスを改善している。また、専攻の教育の方針については専攻の教員が集まる場において随時協議し共通理解を図っている。この共通理解のもとに、具体的な授業改善を進めている。 一人一人の学生の研究成果については、年2回の中間発表会と最終的な研究発表会等により、各教員が情報共有し、教育効果の確認の場として活用している。更に専攻の大学院生の学位取得状況や修了生の進路の状況等についても情報共有している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・シラバスの相互点検をよりきめ細かく行うことで、全てのシラバスが具体的かつより効果的な教育内容を記載するものとなってきている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 表現文化専攻は、人間の総合的な表現行為の根源に立ち返って各自の専門領域を深化させることにより、新たな領域横断的な表現の可能性を探求していくことを理念・目的としている。こうした専攻の特性に応じて、一人一人の学生の研究成果について、年2回の中間発表会と最終的な研究発表会等を行い、各教員が学習成果を確認していることは特筆に値する。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学研究科 表現文化専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表4「入学者受け入れの方針」において、求める学生像や修得しておくべき知識等を明示し、その内容は大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

平成29(2017)・30(2018)年度入学の学生募集では、それぞれ3名、2名の受験者を確保している。入学者選抜は、大学院秋季募集入試、春季募集入学試験があり、いずれも専攻の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づいて、公正かつ適正に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

※個別の視点での記入は不要です。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の学生募集および入学者選抜については、発達教育学研究科委員会及び大学院委員会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。また、学生募集と入学者選抜については、本専攻が掲げる学生の受け入れ方針に基づき、研究科入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜研究科委員会及び表現文化専攻会議に報告されるとともに、必要があれば審議している。 また、学内推薦入試制度の導入について検討を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 本専攻では、上記の審議・手続きと内部チェックを通して、学生募集及び入学者選抜が、学生受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 学部において、平成31年度(2019年)より「外国人留学生」入試が導入されることを受けて、本専攻においてもそれらの留学生を引き続き受け入れるための環境を検討する。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 学内推薦入試制度の導入や外国人留学生の大学院教育など、あらたな取組を検討しており、今後の学生募集に期待される。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学研究科 表現文化専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員像として表現文化専攻は、「教員選考内規」に適合することを基本条件に自らの専門性と他領域との関連性を複眼的に捉える研究・指導の姿勢を持つことを求めている。教員組織は、言語表現、音楽表現、造形表現、運動・舞踊表現の4つの領域の中で学生が個々の専門性を深めながら他領域との統合的な表現を探求していくというカリキュラムポリシーに沿って、全ての領域に指導教員1名以上を配置する編制方針を定めている。 以上のように求める教員像および教員組織の編制方針は明確である。さらに本専攻では、大学院委員を中心に教育研究について協議し、この点に関して必要に応じた意見交換や研究交流を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 表現文化専攻の教育課程は、言語、音楽、造形、運動・舞踊の4つの表現領域に亘り、これらを深化させる科目群とその統合を図る科目群からなっている。また、小学校教諭と中学校・高等学校音楽教諭の専修免許課程を併せ持っている。現在、「大学院研究科担当教員選考内規」に適合した担当科目の専門性を有する11名の専任教員と14名の非常勤教員を配置しており、人員数でも質の上でもこうした多岐に亘る教育課程に相応しい適正な教員組織であると考えている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本学では、発達教育学研究科における各専攻で新規に必要な人員が生じた場合、学部教員の募集・採用にあたって大学院の指導教員、指導補助教員、あるいは授業担当教員としての適格者であることを条件とし、学部審査を通った候補者について「京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規」に明記されている手続・基準に基づいて研究科委員会において審査を行っている。なお、授業担当教員が指導補助教員になる場合や、指導補助教員が指導教員になる場合は、その適性について選考委員会が審査し、研究科委員会において承認される必要がある。このようなプロセスを経て、教員の募集・採用・昇格は適切に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・2017年度は、3名(教授1名・准教授2名)の教員が、2018年度は1名(教授)の教員が、適切な選考を経て採用された。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

教員の資質向上を図るため、教員の業績の開示、学生によるアンケート調査などを通して方策が講じられている。教育活動に対する学生の満足度については、「大学院生アンケート」を基に、専攻内で情報を共有している。また、平成23(2011)年から継続的に実施されている学部を中心とする全学的なFD活動が、全学自己点検・評価委員会や教務委員会と共に大学院委員会と連携を図りながら多面的に実施されている。また、平成28(2016)年度からは、学部における「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき前年度業績の評価が行われていることも、教員および教員組織の改善活動に繋がっていると云えるであろう。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・客観的な評価が目に見えることで、各教員が教育研究に対して課題を見出しつつ、改善活動に取り組むことが出来ている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

京都女子大学教員業績評価に関する規程に照らして、表現文化専攻として自己点検・評価を定期的実施している。また、カリキュラム検討の機会に合わせて教員組織の適切性等について、専攻における会議で意見交換を行い、適宜確認している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・表現文化専攻の各分野における教員組織の適切性と高い質が維持できている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

・特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

本専攻の特徴である多岐に亘る教育課程に相応しい教員組織が構成されている。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見